

病院の整備計画変更申請書

令和5年7月20日

(宛先)

埼玉県保健医療部長

住所 東京都葛飾区新小岩2-1-1
 リーフコンフォート新小岩3階
 氏名 医療法人社団城東桐和会
 理事長 岡本和久

令和5年2月21日付で承認のあった病院の整備計画について、下記のとおり変更を申請します。

記

医療機関名 (仮) タムス越谷病院

変更前の事業計画

承認病床数 172 床 内訳 (医療機能4区分)

高度急性期	
急性期	
回復期	地域包括ケア 48・回復期リハビリテーション 124
慢性期	

変更後の事業計画

承認病床数 172 床 内訳 (医療機能4区分)

高度急性期	
急性期	
回復期	地域包括ケア 52・回復期リハビリテーション 120
慢性期	

変更の理由

【過剰と言われる回復期リハビリテーション病棟の解消】

・病床配分に当たり、東部地域医療構想調整会議において、地域に回復期リハは多いとのご意見が多数ございました。急性期機能の多い地域のニーズを鑑みると、整備が進んでいる回復期リハとするより、地ケアの数を多くすることで、急性期病院からの受入れや急性期病院でなくても治療ができる程度の在宅患者の急性増悪に対応することが出来、地域医療に貢献することが出来ると考えます。これにより、より地域医療に貢献できると考えます。

【安定的な病院運営】

・124床の回復期リハ病床の配分を頂戴しましたが、1病棟60床の制限があり、2病棟では配置できず、病棟を3つ整備する必要があります。建築コスト高の為、効率的な病棟配置を考慮した病院整備は経営的に非常に重要です。病床構成を再編することにより、合理的な建物となりイニシャルコストを抑え資金を運営にあてる事が出来ます。現状の厳しい病院運営に耐え、長期にわたり病院運営ができる環境を作りたいと考えています。

【補足】変更による影響について

・(受入患者) 高度急性期、急性期病院からの患者に対するリハは在宅復帰に重要で、2~3か月程度の長期の入院が必要なことから、配分を受けた回復期リハ病床は可能な限り残したいと考えています。一方で、地ケア病床の平均在院日数はそれぞれ22.6日、(WAM 2021年度病院の経営状況について)と示され、地ケア病床を4床増やしたことにより、年間64.6人の受入れ増が可能となり、地域医療に貢献することが出来ると考えます。

・(配置職員) 医療法上、診療報酬上ともに規定より多い人員配置を想定しており、変更による人員増等影響はありません。看護師はともに13:1での人員配置、回リハ病棟減少の為、セラピストの配置数を3名減少します。

【病院整備計画のスケジュール】

今回の計画変更に伴い病院整備計画のスケジュールの変更はありません。

病床整備計画の進捗状況

項目	計画	変更計画	完了年月日
開設（変更）許可	令和6年4月	—	
使用許可	令和8年1月	—	
基本設計	令和5年6月	—	
実施設計	令和5年11月	—	
建築請負契約の締結	令和6年7月	—	
都市計画法上の手続（開発許可等）	令和6年3月	—	
農地法上の手続（農地転用等）	令和6年3月	—	
建築確認	令和6年5月	—	
着工	令和6年8月	—	
竣工	令和7年11月	—	
開設（増床）	令和8年3月	—	
医療従事者の確保	令和8年1月	—	